

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 46 回 LLW 処分安全評価分科会 議事録

1. 日時 2023 年 4 月 19 日(水) 13 時 30 分～15 時 10 分

2. 会議形態 Web 会議 (Webex)

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 佐々木 (主査), 山本 (副主査), 竹内 (幹事), 大浦, 小澤, 島田, 菅谷,
杉山, 鈴木 (健) (途中退席), 鈴木 (龍), 関口, 中居, 中瀬, 宮本, 村松, 山岡
(16 名)

(代理出席委員) 小曾根 (坂井委員代理) (1 名)

(出席常時参加者) 大石, 中林, 駒月, 斉藤 (4 名, うち 2 名今回登録)

(欠席委員) 石田, 坂井 (2 名)

(欠席常時参加者) (0 名)

(傍聴者) (0 名)

4. 配付資料

F16SC46-1 議事次第

F16SC46-2 第 45 回 LLW 処分安全評価分科会議事録 (案)

F16SC46-3 人事について

F16SC46-4 誤字脱字チェック表まとめ

F16SC46-5 趣意書「浅地中処分の安全評価手法: 2016 (AESJ-SC-F026:2016)」の改定について
(案)

F16SC46-5 参考 1 原子力学会 5 か年計画 (2023 年度)

F16SC46-6 低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—: 20XX (案)
(標準委員会提出版)

F16SC46-7 低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—: 20XX (案)
(転載許諾対応版)

<参考資料>

F16SC46 参考 1 中深度処分安全評価標準に関するスケジュール

F16SC46 参考 2 原子力学会 2023 秋の大会の標準委員会企画セッション検討

5. 議事

a) 出席者/資料確認 (F16SC46-1)

分科会事務局から, 委員総数 18 名中, 委員代理含め 17 名の出席があり, 分科会の成立要件を

満たしている旨報告があり，引き続き配布資料の確認が行われた。F16SC46-7は急遽追加されたものであり，F16SC46-1には記載されていない。

b) 前回（第45回）議事録確認（F16SC46-2）

分科会事務局から，前回議事録については既にメールで各委員に配布しているため，本日中にコメントがなければ学会に送付するとの説明があった。

c) 人事について（F16SC46-3）

分科会事務局から，以下の2名の常時参加者登録についての説明があり，委員により常時参加者登録届を確認の上，議決によって全員賛成により承認された。

駒月 誠治 （中部電力株式会社）

斉藤 太一 （日揮株式会社）

d) 中深度処分安全評価標準誤字脱字チェック結果について（F16SC46-4, 6）

分科会事務局から，1月より各委員の協力で行われた誤字脱字チェックの結果が報告された。合計319件の報告がされ，これらを反映した標準案（F16SC46-6）が今年3月1日に実施された第91回標準委員会で報告を行い，後述の通り転載許諾完了を前提に公衆審査に移行することが承認された。

e) 浅地中処分安全評価標準改定に関して（F16SC46-5, 5参考1）

駒月常時参加者より，浅地中処分安全評価標準の改定が発議された。また，事務局より今回承認が得られれば5月10日に開催される第94回原子燃料サイクル専門部会で報告・審議されることが説明された。以下の質疑で得られたコメントに対応し必要に応じて修正を行うことを前提に，議決によって全員賛成により承認された。主な質疑は以下の通り。

- ・本趣意書の内容は，原子力学会5か年計画(2023年度)にある程度反映されている。
- ・F16SC46-5の表1の8.1で「管理期間」と記載されているが，これは新規制基準より前の用語ではないか。8.2も同様。
→拝承。確認して修正する。
- ・体制について，今の委員は中深度が専門の人間が多いが，今後機会を見て中深度ではなく浅地中について詳しい人に交替することも考えてよろしいか。
→それは各所属団体でご判断される事項であると考えられる。
- ・本標準のエンドースは考えているか。
→そこまでは考えておらず，事業者の参考資料の位置づけとしたい。
- ・参考とする文献として「電力共通委託の成果」が上がっているが，何らかの成果は出ているのか。
→これまで6年間の検討を行ってきており，それなりの成果は上がっていると考えている。また，今年度も委託を予定しており，技術的な議論のフォローをさせていただく。
- ・電力共通委託の成果は具体的に取り込んでいけるのか。

- 成果の中で標準改定に関係するものは、分科会に提示させて頂くことになると考えている。
- ・参考文献に事業者の申請書・審査資料が挙げられているが、附属書の1つに纏めて掲載するのか、各附属書に分散して入れるのか。
- 現状で未検討であり、今後検討したい。
- 分散させると全容が把握しづらくなるため、入れ方はしっかりと検討して欲しい。
- ・トレンチ処分についても覆土等に雨水浸透抑制機能を持たせることが今回の規制基準での大きな見直し項目の一つであるが、抑制機能についての設計例等が標準の中で示されるのか。抑制機能の設計や維持管理は別標準の所掌になると考えられるが、その内容をどうリンクさせる予定なのか。
- 上記の検討は電共委でも実施しているので、それが反映できると思う。他標準とのリンクは今後検討する必要がある。
- 専門部会等での説明では、「関連分科会を横目で見ながら」、「前提条件は（関連分科会間で）情報共有する」等の記載を趣意書に記載する必要はないか。
- リンクすると思われる標準として、L2L3埋設後管理標準：2016では一般的な処分場を例に覆土の管理に対する項目がある。ただし新規制基準には対応しておらず現在改定計画も明確になっていない。
- 上記を安全評価標準の附属書で対応するには、現在の標準附属書からどの程度の規模で見直しが必要か。
- 埋設後管理標準はあくまでも施設が安全審査に合格後の施設管理である。その管理の仕方について現行規制基準と一部合っていない。ただし、その部分が安全評価標準に影響するとは考えにくい。L2L3埋設後管理標準：2016では、東海発電所L3施設の計画例やJAEA研究廃棄物処分場の計画例を示しているので参考にできるのでは。
- 安全評価では設計に関する項目は殆ど記載していない。他の標準でも処分に関しては検査・管理・評価はあるが設計そのものは対象としていない。今回の標準ではトレンチの設計についてもある程度記載する部分もあり、この標準内で対応が必要と考えている。
- 現時点ではL3施設の設計に関しては他の分科会でも検討はされないため、当分科会で条件を示しながら安全評価を実施する必要があると理解した。
- ・中深度処分標準では、標準委員会での決議投票時に標準の独立性について言及された。今回の趣意書でその点についてコメントがあれば欲しい。
- 特にコメントはなし。

f) LLW 処分安全評価分科会関連スケジュール (F16SC46 参考 1, 5 参考 1)

分科会事務局より、まず F16SC 参考 1 を用いて中深度処分安全評価標準関連スケジュールの説明が行われた。前回分科会（1/20）後、第 93 回専門部会（2/1）及び誤字脱字チェックを経て、第 91 回標準委員会（3/1）において決議投票の結果と対応案が報告された。その結果転載許諾完了を前提に公衆審査に移行することが承認された。その後であるが F16SC 参考 1 では 4 月下旬より公衆審査会開始であったが、現時点で転載許諾が遅れていることから、公衆審査開始は 5 月になる予定であることが説明された。

転載許諾について中居委員より報告があり、1件（図 P.2）を除き転載許諾を取得していることが報告された、ただし残件については許諾が得られる時期が未定である。また、転載許諾条件に対し改定した標準案（F16SC46-7）の説明が行われた。その際、解説表 4 は附属書 H にある表とほぼ同一なので、削除することを考えている。

最後に分科会事務局より、F16SC-5 参考 1 を用いて 5 年計画における中深度処分と浅地中処分それぞれの標準のスケジュールが説明され、中深度処分については約 3 カ月の差異があることが説明された。

主な質疑は以下の通り。

- ・浅地中処分についても 5 年計画と趣意書では、例えば中間報告の時期等の相違がある。
- ・表 P.2 は元文献の図より、和訳やステップを増やす等の改編をしているが、転載許諾が必要か。

→本図の転載許諾は念のために近い。

→この図のみ伏せて公衆審査にかけることは可能か。

→標準委員会 3 役の判断になると思われる。

→過去の公衆審査で図表のほとんどが伏せた状態で行われた場合もあるので、1 枚なら問題ないと思われる。

→（既に公衆審査中の）埋設後管理標準でも転載許諾を受けて修正した部分はかなりあったが、これらは 3 役の承認を得て公衆審査に移行できた。もし 6 月 7 日開催の次回標準委員会までに公衆審査が終了し、かつ 1 件も意見が無い場合には専門部会をスキップして標準委員会で発行承認が得られる可能性があるため、転載許諾の遅れている箇所をマスキングしてでも 4 月中に公衆審査に移行する価値はある。

- ・講習会については 3 標準を合同で開催したいので調整させて欲しい。2024 年春の原子力学会大会についても共同で発表できたらと考えている。

→原子力学会大会の企画セッションを講習会代わりにすることは可能なのか。

→前例はある。ただし 3 つ同時にではなかったため、時間等について確認する。

g) 原子力学会 2023 秋の大会について

事務局から、標準活動基本戦略タスクより専門部会へ依頼のあった原子力学会 2023 秋の大会における企画セッション依頼についての説明が行われた。今回は時間的に困難であることから分科会としてアクションは行わない方針とした。

h) 次回分科会等

次回分科会は、7 月 12 日（水）13：30～15：30 を候補とする。

以 上